

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【II III IV V】
2 実施対象者	鷹の巣幼稚園 全クラス 32名 保護者 27名 地域の方 15名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (○) ③ その他 (○) (2) 地域における活動 ① イベント名 (穴生まつり) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 運動あそび（たかのすオリンピック）を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを感じながら、チャレンジしようとする実践意欲を養う。 人との交流を通して、相手に対する礼儀や共によりよく生きようとする心情を培う。

5 取組
内容

<たかのすオリンピックをしようⅠ> (時期：10月～11月)

- 登園後の朝の時間(20分間)に、全員外に出て、様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす楽しさを体感する。
- 毎日継続的に運動する。
- 運動は、なわとび、竹馬、フラフープ、ぱかぽこ、リレーなど。
- 竹馬は、年長組が中心に取組み、毎日練習した。12月頃には、全員竹馬に乗ることができた。挑戦することで、自信をつけていった。



<たかのすオリンピックをしようⅡ> (時期：1月～2月)

- I期と同様に、朝の時間(20分間)に運動する。室内で運動できる内容にする。
- 運動は、トランポリン、跳び箱、マット、平均台、なわとびを使った運動に取組む。
- 各種目に教師がつき、安全面の指導と助言を行う。
- トランポリンの運動では、トランポリンから巧技台→跳び箱へ飛び移る運動を取り入れた。ジャンプした体を一旦止める動きを入れることで、体幹を鍛える。
- 跳び箱を使った運動では、子どもの実態に応じて、3段、4段、5段のコーナーを設け、教師が手の付き方支え方や足の広げ方など援助を行った。



<げんきっ子体操をしよう> (時期：5月～2月)

- 講師の八幡先生から指導していただきながら、リズム体操や器械運動に取組む。
- 音楽に合わせて体を動かす楽しさを味わう。また、体を曲げたり、跳ねたり、様々な動きをして、柔軟性やバランス感覚を高める。



<皿倉山に登ろう> (時期：10月下旬)

- ・地域の年長者の方や保護者と一緒に皿倉山に登る。
- ・幼児にはきつい体験であるが、きつくても最後までがんばるように励ましながら登った。
- ・地域の年長者に案内してもらいながら登る。
- ・頂上についたら、保護者とおにぎりを食べ、達成感を味わった。



<年長者と交流をしよう> (時期：6月～2月 計6回)

	月 日	ねらいと主な活動内容
1	6月20日 (火)	○長生会の方を知り、一緒に七夕飾りを作ることを楽しむ。 (自己紹介・歌や踊り・七夕飾りづくり・触れ合い遊び)
2	9月24日 (日)	○運動会で頑張る様子を見ていただいたり、応援したりしていただく中で意欲を高めたり、満足感を味わったりする。 (運動会を見に来ていただく)
3	11月8日 (水)	○秋の木の実を使って長生会の方と一緒に触れ合って遊ぶことを楽しむ。 (お店ごっこ・ドングリごまやマツボックリのけんだま作り・歌や楽器遊び・じゃんけん遊び・肩たたき)
4	12月18日 (月)	○凧揚げの仕方を教えていただき、一緒に触れ合って楽しむ。 (凧揚げを教えていただく)
5	1月20日 (土)	○餅つきの様子を見せていただいたり、一緒に餅つきや餅丸め、会食を楽しんだりする。(餅つきと会食)
6	2月23日 (金)	○うどんを一緒につくったり、会食を楽しんだりする。 ○一年間の交流でお世話になったことへ感謝の気持ちをもつ。 (うどんづくり・プレゼント渡し)

- ・地域の年長者の会「長生会」と年間6回継続的に交流を行う。
- ・秋の遊びや凧揚げなど、季節の遊びや年長者の方が得意な遊びを取り入れ、ふれあいの場を多くもつことで、年長者への尊敬の念をもつように

する。

- 交流の回数が増えるごとに、長生会の方々に会うのを楽しみにしている子どもたちの姿が見える。また、会った時の嬉しそうな笑顔や交流を行っている時の穏やかな顔から、交流を継続的に行う意義を感じることができる。



<鷹見楽太鼓を受け継ごう> (時期：6月～2月)

- 年長組が地域の伝統文化「鷹見楽太鼓」を保存会の方から教えていただいている。その成果を地域のまつり「穴生まつり」で披露する。
- 「鷹見楽太鼓」は、地域の貴重な無形文化財としてこれまで受け継がれてきた。
- 子どもたちは、6月から練習を積み重ねている。太鼓のリズムが難しいが、竹のばちを持ち、リズムを口ずさみながら練習している。保存会の方々が、毎回4名来られ、丁寧にばちの持ち方や礼の仕方など、礼儀作法も教えていただいている。
- 10月8日の穴生まつりに参加した。舞台上立った園児は緊張していたが、穴生まつりに来られた、沢山の地域方や保護者の前で、堂々と演奏することができた。演奏を終えた子ども達は、充実感に溢れた顔をしていた。
- 鷹の巣幼稚園の子ども達にとって、年長になったら、鷹見楽太鼓を演奏できるという喜びと自分たちが受け継いでいるという自信になっている。また、地域の方との関わりを深める、ふれ合いの場になっている。



<おもてなし教室> (時期：1月)

- 筑波大学客員教授の江上いずみ先生をお招きし、幼児と保護者を対象とした「おもてなし教室」を開催した。
- 人との接し方として、挨拶や礼の仕方等、礼儀についてお話を聞いた。
- 子どもたちは、人に対するおもてなしの基本を学ぶことができた。
- 保護者からは、客室乗務員を経験された江上先生の体験談から、コミュニケーションの大切さや人への思いやりなど貴重なお話を伺うことができたという感想を寄せられた。



<p>6 主な 成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、継続的に運動を続けることで、運動量が増し、外で元気よく遊ぶことができている。外で活発に遊ぶためか、精神的にも発散できている。 ・様々な運動に取り組むことができた。トランポリンや跳び箱、鉄棒など、一人一人の実態に合わせて支援することで、できなかったことができるようになり、自信に繋がった。 ・竹馬や山登りなど、苦手なことやきついと感じることを克服することで、幼児の成長する姿が見られた。 ・年長者とのふれあい活動を継続することで、人とふれ合うことが楽しいと感じる、コミュニケーションの素地を培うことができた。 ・「おもてなし教室」を通して、日々の保育の中で「おもてなし」をキーワードに相手に対する言動やあいさつ、お辞儀の仕方など、幼児に意識させることで、言葉遣いなどに変化が見られた。 ・「おもてなし教室」に保護者が参加することで、保護者にも相手へのマナーなどを考える機会ができ、良かった。また、終了後の感想が大変好評であったため、保護者に参加をよびかけたことは有意義だった。
<p>7実践に おいて工 夫した点 (事業の 特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、本実践における目的を達成させるために、有効な手立てを職員全員で話し合い、取組みを共通理解し、実践につなげていった。 ・「たかのすオリンピックⅠ」では、幼児の日常の遊びを発展させていった。例えば、フラフープは、回すだけでなく転がして遊ぶなど。年少の幼児がフラフープを追いかけて走る遊びを考えていた。 ・鉄棒や跳び箱、マット運動など、小学校への接続を考えた運動（特に器械運動）に取り組んだ。 ・運動の楽しさだけでなく、チャレンジすることの大切さを意識して実践を行った。 ・人とふれ合いの機会を多くもつようにした。年長者や小学生、地域の方など。
<p>8主な 課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックやパラリンピックの意義や国際理解に繋げる活動までには至らなかった。 ・人とふれ合い、体を動かす楽しさを中心に実践を行ったため、オリンピック・パラリンピックという意識まで高める難しさを感じた。
<p>9来年度 以降の実 施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を一層充実・継続させていく。 ・幼児教育の中での国際理解に繋げる取組（国旗などの紹介等）を行う。